
色んなかたちの…

えふちー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

色んなかたちの…

【Zマーク】

Z9939L

【作者名】

えふちー

【あらすじ】

時に需要とか全く無視の、作者の趣味全開な短編集。
これが本当のえふちーワールドだ！

ある晴れた日、縁側にて。（前書き）

まづは…

ゆかれい

ある晴れた日、縁側にて。

私の目の前で、互いの吐息がかかるほどに近い距離で、彼女は笑つた。

およそ今まで見たことのない、共に結界を守つてきた無愛想な彼女の、とびきり眩しい笑顔。

私は、思わずその笑顔に見とれてしまつていた。長い睫毛、少し低めの鼻、柔らかそうな唇。その全てが、私を魅了してやまない。

そんな事を考へていると、すつと、彼女が離れていく。ああ、待つて…まだ、まだその美しい笑顔を見ていきたいのに…！

気付けば私は、離れていく彼女を抱き寄せ、その柔らかな唇を奪つていた。

ぱり、ヒロが覚める。ビーナス私は寝ていたらしい。

「…ふおあ」

変な欠伸をして、んーっと伸びる。

はて、なんだかとても良い夢を見ていた気がするが…

「やつとお皿覚め? 紫」

後ろから声が聞こえた。とても心地良い、聞き慣れた声。

「んあ、靈夢…? なんているの…?」

小首を傾げて、ちょっとふざけてみる。

「ここは私の神社よバカヤロウ」

「痛い!」

割と本気でチョップされた。

「呑く」と無いじゃないのよおう…

「あ、お茶飲む?」

「飲むー」

すつ、と差し出されたお茶を受け取り、ずすっと啜る。なんだか
流されてくる氣もするけど。

「うはあ…んまいわあ…」

思わず脱力。

「うわ、間抜けなツラねえ…」

「なつ、ひどいわね…こんなに美味しいお茶を淹れる靈夢が悪い…」

「だったら飲むな

「すみませんでした」

つたぐ、と言つて靈夢もお茶を啜る。うーん…顰めつ面も綺麗…

「ふはあ…つて、何よ?なんか付いてる?」

「靈夢が可愛いから見て痛いつ…!」

またチョップ。靈夢はプロレスラーでもなるつもりなのだからつ

か。

「次は刺すわよ」

「刺すだなんて…靈夢つたり…」

「ああ？」

針を構える靈夢。

「すみませんでした」

「よろしく」

靈夢はせつぽを向いてしまつ。そのつととした態度をえ、とても愛しい。と、うか抱き締めたい。

「ねえねえ靈夢」

「あにょ」

「うわ、田つも悪つーまさに鬼ね…

ど、そんなことを言つたい訳じゃない。圧倒されつゝも靈夢に言葉を投げかける。

「あ、あのね…抱き締めていい？」

「…………くつ…?」

ボンッ！と一気に赤くなる靈夢。あれ？予想外の反応なんだけど…「ば、バカね！そんな事別にいつだつて…じゃない！抱き締めて欲し…でもない！」

「お、おお…何テンパってるのよ靈ぐふうお」

靈夢の渾身のチヨップをまともに喰らい、私は本田一回田の眠りへと落ちていった。

「まつたぐ……」の色魔が……

倒れてくる紫に視線をやる。なんだか凄く幸せそうな顔をしている。

「も、もひ……この、色ボケ、妖怪……」

なんて言いながら、じいっと紫の顔を見つめる。その表情がなんだかとても可愛らしくて、つい。「そういうことさ、断らないで、するものなのよ……」

なんて、漏らしてしまった。

先に言い訳をしておくと、この時、私は非常に混乱していたのだ。だから、私は悪くない。

「あ、あんたが、だらしないから、し……仕方ないから、私がリードして、やるわ」

倒れてくる紫の顔に、ゆっくりと近づいていく。

近づくたびに紫の、不思議な、でもとても良い匂いが、私をクラクラさせる。

ああもう、いい年の人にして、こんなに、か……可愛いなんて、反則よー。

気付けば私は、その柔らかい唇に、ちよつと強めの口付けをしていた。

ガツン、ヒ、歯と歯の当たる音がした。

ある晴れた日、縁側にて。（後書き）

夢が正夢になつたのに、それに気付けない可哀想なゆかりんでした。

どうも、お久しぶりです、えふちーです、　、　）ノ

知らない人は、覚えてねえ

この短編集は、完全に作者趣味になりますので、過度な期待はしないで下さいね（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9939/>

色んなかたちの...

2010年10月8日12時30分発行